

石濱裕美子のお仕事一覧(A.一般と B.専門向けに分かれています)

A. 一般向け

【文章並びに書籍】

1. 1999 年 8 月 「チベット密教史」『チベット密教（シリーズ密教 2）』（春秋社）. pp.29-48
2. 1999 年 9 月 『チベット歴史紀行』（河出書房新社）. 127p.
3. 1999 年 9 月 「聖地ポタラ宮ものがたり」『とんぼ』（出帆新社）. pp.148-159
4. 2000 年 6 月 「ヒマラヤ越えの亡命劇が物語るもの」『大法輪』6（大法輪閣）. pp.126-131
5. 2000 年 7 月 「チベットの大乗仏教-ダライ・ラマに体现される「菩薩」の姿」『大法輪』7（大法輪閣）.pp.118-121
- (5.)2001 年 9 月 「チベットの大乗仏教」『仏教思想を読む』（大法輪閣）.pp.205-211
- 6.2000 年 10 月 『中央ユーラシア史』（山川出版社） 分担執筆
- 7.2002 年 11 月 『ラサとカトマンズ』『週刊朝日百科世界 100 都市』 50 号（朝日新聞社） 分担執筆
- 8.2003 年 7 月 「観音菩薩の聖地—チベット」『中国語ジャーナル』 7 月号, p.97.
- 9.2004 年 3 月 『シャーロック・ホームズの失われた冒険』の「解説」 河出書房新社、 pp.369-377。ちなみに帯の「ホームズが見たチベット!」も私のコピーです。
- 10.2004 年 4 月 「文成公主」『世界史のしおり』 帝国書院、 p.21。
- 11.2004 年 5 月 『チベットを知るための 50 章』 明石書店。
- 12.2004 年 6 月 『ダライ・ラマその知られざる真実』の「解説」 河出書房新社、 pp.561-569.
- 13.2005 年 3 月 31 日 「真の敵は心の内に」『中外日報』 「中外時評」 3 月 31 日
- 14.2005 年 「乾隆帝僧形図の調査を終えて」『満族史研究』 第四号, pp.260-269.
- 15.2005 年 5 月 「北京の中心でチベット・中国両民族の幸せを祈る」『歴史書通信』 No.159 pp.2-4

- 16.2005年6月「乾隆帝僧形図の調査を終えて」『満族史研究』No.4 pp.260-269
- 17.2006年6月『癒しの塗り絵 美しい密教の仏とマンダラ』(扶桑社)
- 18.2006年8月「低迷する仏教青年会にブログで喝!」『在家仏教』8月, pp.60-61
- 19.2006年夏号「千年の都 ラサ」『旅行人』夏号 pp.54-60
- 20.2006年「時空を超えた聖地 ポタラ宮」『旅行人』夏号 pp.70-77
- 21.2006年「チベット仏教における師子相承」『高野山大学選書第二巻 真言密教の新たな展開』 pp.84-85
- 22.2007年「チベットと中国に翻弄される犬たち」『月刊 Wan』 pp.16-19
- 23.2008年1月、「シャングリラ神話の原像」『熱風』 pp.5-10
- 24.2008年6月(対談)「チベットの祈りが中華拝金地獄を打ち破る」『諸君!』, pp.52-60
- 25.2008年6月「チベット問題の平和的解決のために」『世界』no.779, pp.20-24
- 26.2008年6月「観音の化身・ダライラマ」『大法輪』7月号, pp.40-45
- 27.『宗教の世界史』第三卷第二章三節、第三章一節、四章第三節『仏教の歴史1』(入稿済)
- 27.2008年秋「チベット仏教における王権思想」『世界平和教授アカデミー』 No.179, pp.56-69
- 28.2008年11月「ダライ・ラマとチベット人の抵抗の歴史」『imidas special 世界と日本の地勢を読み解く時事力』, pp.16-17
- 29.2009年1月「『チベット死者の書』とは」『熱風』, pp.26-28
- 30.2009年3月「チベット仏教の輪廻観」『大法輪』, pp.98-102
- 31.2009年3月「すべての命あるものを愛する観音菩薩の化身」『マンガで読む偉人伝①ダライ・ラマ 14世』 pp.218-219 マガジンハウス
- 32.2009年4月「支配されたチベットの今」Uplink で上映の『風の馬』パンフレット解説, pp.12-13
- 33.2009年6月「ダライ・ラマ法王の半世紀」『軍縮』No.344, pp.22-31
- 34.2009年8月「チベット仏教の普遍的性格」『東亜』No.506, pp.22-30

35.2010年3月「中国共産党によるチベット仏教弾圧の歴史」 『宗教と現代がわかる本 2010』 pp.130-33

36.2010年4月 『世界を魅了するチベット仏教 少年キムからリチャードギアまで』 三和書籍

37.2010年3月「世界を魅了したチベット仏教」 『サンガジャパン』 pp.180-183

38.2010年4月 『須弥山の仏教世界 新アジア仏教史 09 チベット』 「後伝仏教の諸相」 pp.50-98、「ダライ・ラマ十四世」 pp.382-450、佼成出版社

39.2011年6月 「チベット仏教世界の一部としてのモンゴル理解の必要性について」 『モンゴル史研究 現状と展望』 pp.218-236、明石書店

40. 2016年8月 『ダライ・ラマと転生』 扶桑社新書

41.2018年4月 『中央ユーラシア研究入門』 第六章「チベット、モンゴル、満洲に広がる仏教世界の成立と展開」 山川出版社、:152-167

★[一般向け翻訳]

1. 1992年9月 ロサントンデン著『現代チベット語会話 Vol.1.』(Modern Tibetan Language の共訳) 世界聖典刊行協会. 224p.

2. 1994年1月 チューヤン著「チベットの五つの精神文化」『仏教』(cho yang の訳)(法蔵館) 第26号. pp.64-133.

3. 1994年1月 ツァンニョン=ヘールカ著「偉大なる行者ミラレパの伝記」(mi la'i mgur rnam の訳)『仏教』(法蔵館) 第26号. pp.134-148.

4. 1994年12月 タクトゥンドルジェ著「デーロク物語」『ユリイカ』(青土社) pp.40-55.

5. 1995年1月 ダライラマ十四世著『ダライラマの仏教入門』(The meaning of Life の訳)(光文社) . 226p.

6. 1995年12月 ダライラマ十四世著『ダライラマの密教入門』(Kalacakra Tantra, Rite of Initiation の訳)(光文社). 276p.

7. 2012年4月 チベット亡命政府文部省著『チベットの歴史と宗教』((rgyal rabs chos 'byung dang rigs lam nang chos の 訳)(明石書店).

★ [辞典・辞書のチベット・モンゴル関連項目]

『中国の歴史散歩』(1)内蒙古自治区. 山川出版社

『中国の歴史散歩』(4)西藏自治区. 山川出版社
『歴史学事典』弘文堂
『クロニクル世界史』講談社
『角川歴史大辞典』角川出版社
『仏教辞典』岩波書店
『歴史小辞典』山川出版社
『大法輪 特集 仏教人物事典』平成十八年第五号
「チベットの暦」『暦の百科事典』朝倉書房(入稿済)

★ [書評]

- 1.1991年5月 「回顧と展望ーチベットー」『史学雑誌』100巻.5号. pp.276-278.
- 2.1994年1月 「川村邑徳・林由香里著『チベット死者の書』書評」『読書人』1月7日発行
- 3.1995年6月 「山際元男著『チベットのこころ』書評」『信濃毎日新聞』6月25日発行
- 4.2000年5月 「回顧と展望ー内陸アジア(二)ー」『史学雑誌』109巻.5号. pp.258-263.
- 5.2000年6月 「渡辺一枝『わたしのチベット紀行』書評」『週間現代』
- 6.2000年9月 「ダライ・ラマ『ダライ・ラマが語る』書評」『中外日報』9月26日
- 7.2001年10月 「野本甚蔵著『チベット潜行1939』書評」『読書人』10月5日発行
- 8.2004年11月 「平野聡著『チベット問題の歴史的淵源を探る』書評」『図書新聞』2703号 11月27日発行
- 9.2005年8月 「平野聡『清帝国とチベット問題』」『歴史学研究』804号, pp.57-59
- 10.2005年9月 「平野聡著『清帝国とチベット問題』」『東洋史研究』64巻2号, pp.148-155.
- 11.2008年 Our Great Qing by Johan Elverskog, 『中國文化研究所學報』48期, pp.511-516
12. 2016年 「川田進 東チベットの宗教空間」『現代中国』
13. 2018年 「アジャ・リンポチェ回想録」『図書新聞』3月14日

★ [講演・公開講座]

早稲田大学 Extension Center での講義

1994年 7/15～8/5 「臨死体験ーチベット死者の書に見るエゴの解放ー」

1995年 7/14～8/11 「メメント・モリーー死の文化を考えるー」

1996年 7/22～8/5 「ヒマラヤの精神文化史」

2000年 7/24～7/26 「チベットの歴史と文化」

1994年 3/30 「チベット学をはじめたわけ」 わたりうむ美術館トーク

1996年 4/20 「薬師仏のヒーリング儀式」 アーユルヴェーダ研究会例会

2000年 2/27 「チベットを知る」 有隣堂カルチャークラブ

2000年 8/5 「チベットの都ラサのポタラ宮」 世界考古学発掘アカデミー

2000年 9/17 「チベットの聖者伝」 仏教伝道協会

2001年 5/20 「チベットを知る」・チベットの医学（水銀薬）・チベットのマンダラ（カーラチャクラ） 有隣堂カルチャークラブ

2001年 6/2 「チベットの聖都ラサ紀行」 世界考古学発掘アカデミーサロン講座

2001年 10/20 「チベット 生と死の哲学」 きくち体操 川崎スタジオ

2001年 11/18 「銀幕のダライラマ」 世界考古学発掘アカデミー

2002年 5/11 「チベット仏教とダライラマをめぐる国際関係」 専修大学総合科目に外部講師として呼ばれて

2002年 神奈川会場：6/15日 東京会場：6/30日 「古代チベットの神話と遺跡」（13:00-15:00） ・「チベットの都ラサ」（15:30-17:30） 風のカルチャー

2002年 8/29 「世界の屋根への侵入者たち」 世界考古学発掘アカデミー主宰 於 エジプト研究所

2002年 9/6 「ダライラマの非暴力と環境保護の思想」 学術フォーラム『多価値化の世紀と原子力』 東工大・フェライト会議室

2003年 3/1 「ブッダの生涯と聖跡」 「観音信仰とその聖地 ～ポタラ宮から百観音まで～」 於 風カルチャークラブ 於大倉山記念館

2003年 3/16 「チベットの僧院文化ーダライラマ・仮面舞踏・シャーマンー」 「シャングリラ伝説の虚実ー西洋

におけるチベットイメージ」風のカルチャー 於大倉山記念館

2003年 6/29「聖河とその源流にある聖なる山(13:30-15:30)・「四宗教(ジャイナ教・仏教・ヒンドゥー教・ボン教)の聖地ーカイルアスー」(16:00-18:00)風のカルチャー於 ブリーズベイホテル

2003年 「新しい世界史ー遊牧民を擒にしたチベット仏教ー」(7/3 10:30-12:15)・「新しい世界史ーダライラマを廻る中央アジアの国際関係ー」(7/19 10:30-12:15) 朝日 カルチャークラブ・横浜

2003年 9/26「ダライラマの非暴力思想ダライラマの非暴力思想 日本原子力大会秋の大会総合講演報告 5 於静岡大

2003年 10/14「観音菩薩に祝福されたチベット史」10/21「ダライラマ 14世の非暴力思想」「アジア理解講座チベットを知ろう」於国際交流基金アジアセンター

2004年 1/31「シャングリラ伝説の源流」チベット文化研究会新年会記念講演 於 ゆうぼうとレストランシェーン・ザール(講演内容は『チベット文化研究会報』2005 四月に掲載)

2004年 2/15「ネパール仏教の歴史と美術」(12:30-14:30)・「カトマンドゥ聖地ものがたり」(15:00-17:00)風のカルチャー於 マリタイム・ミュージアム

2004年 5/11ー5/25(全二回) 「チベット仏教美術を楽しむ」世界考古学発掘アカデミー主宰 於 エジプト研究所

2004年 6/5「歴代のダライラマ法王」(10:00-12:00) チベット・ハウス主宰 於 常円寺(講演内容は『チベット通信』2005 春より順次掲載)

2004年 6/27「ソリク(チベット医学)の世界」 風のカルチャー 於 ブリーズベイホテル

2004年 10/23 「河口慧海ゆかりの地とチベット仏教美術を鑑賞する散歩」世界考古学発掘アカデミー主宰 於 安養院・五百羅漢寺・浄真寺

2005年 3/9「The Qianlong Emperor as a Manifestation of the Bodhisattva Manjusri」held by The Committee on Inner Asian and Altaic Studies of Harvard University.(13:00-14:00)

2005年 3/13 「満洲人の宗教と文化」(14:00-14:00)於横浜市技能文化会館 802

2005年 9/19・9/26・10/3「チベット仏教の世界」(14:00-15:30)於 JTB ロイヤルロード銀座店

2005年 10/8・10/22「ダライラマのすべて」(13:00-14:30)於朝日カルチャーセンター横浜

2006年 6/7 「ヒマラヤを超えた観音伝説」・6/14「聖地の作法」(14.00-15.30)於銀座 JTB サロン

2006年 6/24「明治のチベット・イメージ」(9:00-12:10)専修大学神田校舎

2007年4/21～9/29(全七回) 「ダライラマの仏教入門」 東急カルチャーBE 渋谷校

2007年10/10～3/1(全八回)「ダライ・ラマの仏教思想を読む」 東急カルチャーBE 渋谷校

2008年6月2日 アムネスティシンポジウム「チベット～終わらない人権侵害と中国の民族政策～」スピーカー 於 ちよだプラットフォームスクエア

2008年5月16日 「チベット問題のゆくえ」アジア研究懇話会5月例会 於 国際善隣協会
*「今、チベット問題を考える」『善隣』2008,7月 pp.10-15 講演録

2008年6月10日 「チベットを知る」高野山真言宗和泉自治布教団 講演会 於 大阪府立体育館

2008年6月21日 広島国際平和会議主催「チベットに未来を考える」基調講演:「歴史学から見たチベット・中国関係史の実像」 於 RCC文化センター7F3C

2008年7月2日 「チベット仏教世界(チベット・モンゴル・満洲)の歴史」於 国際仏教学大学院大学

2008年7月2日 「地球への思いやり ～COMPASSION FOR THE PLANET～チベットを救え!アジア・パシフィック公開フォーラム」特別講演 於 学士会館

2008年7月21日 JVJAチベット報告会スピーカー「観音菩薩に祝福されたチベット史」 於 明治大学リバーテータワー3F 1032教室

2008年9月4日 四谷ロータリークラブ卓話「祈りの国チベットの過去と現在を知る」 於 明治記念館千歳の間

2008年9月～2009年3月21日(第三土曜日 全六回)「チベット仏教世界の歴史的展開～フビライ・ハンからハリウッドのリチャード・ギアまで～」 東急カルチャーBE 渋谷校

2008年10月19日 16:30-18:00 Feel Tibet 「雪の国の法王ダライラマを知る」 於 奈良県代官山スタジオ

2009年1月16日 19:00-20:30 国際交流基金主宰異文化理解講座『チベットを知る』『チベット仏教世界の歴史』 於 JFICホール [さくら]

2009年1月24日 13:00-14:00 東北大学東北アジア研究センター共同研究「北アジアにおける帝国統治とその遺産に関する研究」第五回研究会「チベット仏教世界の歴史的展開」 於 東北大学川内北キャンパス川北合同研究棟四階大会議室

2009年4月21日 14:00-16:30 社団法人中国研究所研究会「チベット--民衆蜂起から50周年を迎えて」 於 中国研究所

2009年4月26日 10:00-11:30 チベット民衆蜂起 50周年法要「チベットとダライ・ラマの半世紀」於 善光寺本願坊

2009年5月2日 14:10-15:10「ダライ・ラマ法王の半世紀」於 ミニシアターUplink

2009年5月4日 18:30-19:30 ダライ・ラマ代表事務所主催 「パンチェンラマとタシルンポ大僧院」於 新宿文化センター小ホール

2009年5月23日 14:50-15:30 チベットの平和を祈念する僧侶の会(第二回)「グローバル時代に仏教が持つ可能性」於 護国寺桂昌殿

2009年10月17日 15:30-16:00 高知県仏教会主催 高知チベットまつり「ダライ・ラマ法王のすべて」於 高知竹林寺本坊

2009年10月10日・24日・11月7日「聖地チベットーポタラ宮と天空の至宝展」関連講座チベットー天空の仏教美術」於 横浜朝日カルチャーセンター

2009年11月28日 14:30-16:00「チベットの仏教美術」於東京都美術館 チベット芸術フォーラム主宰

2009年12月19日 15:00頃～16:30「モンゴルを魅了したチベット仏教」第3回 bTibet09(チベット基礎講座)於 護国寺桂昌殿

2010年4月3日 19:10～19:40「チベットの歴史」チベット近況報告 於四谷区民ホール

2010年5月3日 11:00～12:00「チベット仏教世界への誘い」 於出雲大峯 中嶺山 峯寺

2010年7月2日 19:10～20:00「チベットのマンダラについて」 於あいだみつを美術館

2010年10月30日～11月20日「ダライ・ラマ14世の説く「人としての価値」 於朝日カルチャーセンター横浜

2012年2月10日～3月9日 18:30～20:00「チベット仏教の生と死の教え 業と輪廻の文化を読み解く」(全4回) 於早稲田大学エクステンションセンター

2012年5月4日 13:00～「仏になるための入門儀礼～灌頂」於出雲大峯 峯寺

2012年5月7日 14:00～ 「チベット、その文化と仏教の現状」群馬県總和会・群馬県嶽山会共催 於群馬ロイヤルホテル

2012年9月8日 13:00～14:30 「中国を揺るがすチベットの祈り」朝日カルチャーセンター横浜

2012年9月13日 15:50～17:20 「チベット仏教の現状 日本の僧侶は何をなすべきか」第24年度 天台宗群

馬教区布教教学研修会 於伊香保温泉ホテル天坊

2013年2月14日 19:00～「チベット・インディペンデンス・100 チベットの歴史と国家」 於新宿区立角筈区民ホール

2013年4月13日 毎週土曜日 13:00～4:30「雪の国(チベット)の仏教と歴史」(全10回) 於早稲田大学エクステンションセンター

2014年12月7日 14:10～15:40「チベットの僧院に生まれ変わった子供を訪ねて」 出雲峯寺チベットフェスティバル

2015年 毎週土曜日 2/14, 2/21, 2/28, 3/7 14:25～「チベット仏教の死生観」(全4回)於早稲田大学エクステンションセンター

2015年3月21日 13:00～ 「チベットって、知っていますか」 於 福岡市市民福祉プラザ 視聴覚室(福岡県福岡市中央区荒戸3-3-39)

2016年1/9, 1/16, 1/23, 1/30「ダライラマ13世を取り巻いた帝国主義のプレーヤーたち」(全4回) 於早稲田大学エクステンションセンター

2016年5月8日 「洲本寺町文人・墨客・志士を訪ねて」 集合場所 洲本市立中央公民館前 益習の集い主催

2016年9月11日「子孫が語る岡田鴨里とその時代」 洲本市立総合福祉会館 14:00～15:30 益習の集い主催

2016年10月8日「チベットの僧院社会と密教の伝授ー ギュメ大僧院とグヒヤ・サマージヤ(秘密集会)の伝授の実際ー」 大本山護国寺(桂昌殿) 15時～17時

2016年10月22日「天空の聖地 チベットの歴史と文化」 讃岐村塾主催 サンクリスタル高松3階第一集会室 13:30～15:00

2016年11月4日第297回 東大仏教生年会・公開講座「チベット密教の伝授の現場ー哲学と行ー」 東京大学仏教青年会会館ホール 17:00～19:00

2017年5月27日(土) 東京で感じる天空の聖地「チベット」(日帰りツアー) 日経カルチャー主催

2018年4月30日(日)「56年前からはじまった長野とチベットの縁 奥田正造から聖火リレーまで」 於長野生涯学習センター 10:00-11:00

2018年8月25日「赦しは暴力の連鎖を断ち切るかーダライラマ14世の非暴力思想」 於早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校

2018年10月27日(土)「石濱裕美子(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)「明治・大正・昭和初期の石濱

家 ～漢学・文学・帝大人脈～」 「東西学術研究と文化交渉ー石濱純太郎没後 50 年記念国際シンポジウム」 関西大学図書館・関西大学東西学術研究所主催

2019 年 1 月 21 日 「ダライラマ 14 世とチベットの未来」 於 学士会館 経営フォーラム主催 17:45～

2019 年 3 月 23 日 (土) 「中国の制裁を受けつつもモンゴルがダライラマ 14 世を迎え続けた理由」 於早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 16 階第 10 会議室 15:30～日本モンゴル協会主催

B. 専門家向け

★ [書籍(編著含)]

1. 1986 年 3 月 『西藏仏教宗義研究--トゥカン一切宗義モンゴルの章--』 (共著) 東洋文庫 (執筆箇所: 第 2 章 pp.12-20「青海グンルン寺を巡る交友関係」、第 3 章 pp.21-28「モンゴル年代記の史料上の性格」、第 5 章 pp.79-102. 「ゲールク派政権成立時におけるハルハ=モンゴル部の動静」) .
2. 1986 年 11 月 A Comparative Table of Sa-bcad of the Pramanavarttika Found in Tibetan Commentaries on the Pramanavarttika. (共著). 東洋文庫. 260p.
3. 1989 年 3 月 A New Critical Edition of the Mahavyutpatti; 『新訂翻訳名義大集』 (共著). 東洋文庫. 500p.
4. 1995 年 3 月 『西藏仏教宗義研究--トゥカン一切宗義ゲルク派の章--』 (共著) 東洋文庫 (執筆箇所: pp.52-89)
5. 2001 年 3 月 『チベット仏教世界の歴史的研究』 東方書店
6. 2011 年 9 月 『清朝とチベット仏教』 早稲田大学出版部
7. 2015 年 『チベット伝統医学の薬材研究』 (共著) 藝華書院
8. 2019 年 *The Resurgence of "Buddhist Government" Tibetan-Mongolian Relations in the Modern World.* Union Press. (編著者)

★ [学術論文]

1. 1984 年 12 月 「哲布尊丹巴胡図克図考」 (卒業論文)
2. 1986 年 1 月 「18 世紀初期の青海をめぐる国際関係」 (修士論文)
3. 1988 年 1 月 「ジュンガルのチベット侵攻前後における青海ホショトとジュンガルの協力関係について」 『早稲田大学文学研究科紀要』 別冊 14 集. pp.199-211.

4. 1988年 3月 「東洋文庫所蔵『撫遠大將軍奏摺』と中国社会科学院歴史研究室編『清史資料』第三輯所収『撫遠大將軍奏議』」『モンゴル研究』第18号. pp.3-17.
5. 1988年 3月 「清朝のチベット平定に対する青海ホショトの立場」『日本西藏学会会報』第34号. pp.1-7.
6. 1988年 3月 「グシハン王家のチベット王権喪失過程に関する一考察」『東洋学報』第69冊 3.4 合併号. pp.151-171.
7. 1989年 1月 「18世紀初頭におけるチベット仏教界の政治的立場について」『東方学』第77号. pp.143-129.
8. 1989年 3月 「モンゴル・タンジュール所収『翻訳名義大集』の系譜」『モンゴル学会紀要』第19号. pp.1-14.
9. 1990年 9月 「『エルデニ・イン・トプチ』におけるニンマ派文献の影響について」『史観』第123冊. pp.47-58.
10. 1990年 3月 「モンゴル年代記がチベット年代記に与えた影響について」『日本西藏学会会報』第36号. pp.19-24.
11. 1992年 8月 "A Study of the Seals and Titles Conferred by the Dalai Lamas". The Proceedings of the International Association of Tibetan Studies. Seminar of the International Association for Tibetan Studies. pp.501-514.
12. 1992年 9月 「摂政サンゲ・ギャンツォの著作に見る十七世紀チベットの王権論」『東洋史研究』第51巻. 2号. pp.56-76.
13. 1993年 1月 "On the Dissemination of the Belief in the Dalai Lama as a Manifestation of the Bodhisattva Avalokitesvara". Acta Asiatica. No.64, pp.38-56.
14. 1994年 1月 「僧形の王 (priest-king) ダライラマ」『仏教』第26号. pp.257-266.
15. 1994年 3月 「パクパの仏教思想に基づくフビライの王権像について」『日本西藏学会会報』第40号. pp.35-44.
16. 1994年 6月 「パンチェンラマと乾隆帝の会見の背景にある仏教思想について」『内陸アジア言語の研究』第9号. pp.27-62.
17. 1994年 12月 「転輪聖王思想が蔵蒙清関係に与えた影響について」『史滴』第16号. pp.59-64.
18. 1995年 3月 「『アルタン・ハーン伝』に見る十七世紀モンゴルの歴史認識について」『日本モンゴル学会紀要』第25号. pp.1-

19. 1996年8月 「ヒマラヤをおりたチベットの聖者たち」『あうろーら』第4号. pp.156-165.
20. 1997年 A New light on the "Chinese Conquest of Tibet" in 1720--based on the new Manchu sources-- , Proceedings of the 7th Seminar of the International Association of Tibetan Studies vol.1. Verlag der Osterreichischen Akademie Der Wissenschaften. Wien. pp.419-426
21. 1997年7月 「チベット仏教世界の歴史的研究――菩薩王としてのチベット. モンゴル. 満州王侯の事績について――」(博士論文)
22. 1998年3月 「チベット文書簡の構造から見た17世紀のチベット、モンゴル、清関係の一断面」『アジア・アフリカ言語文化研究』第55号. pp.165-189
23. 1998年12月 「ダライラマ招請の背景にある順治5年の清・モンゴル関係について――第一歴史档案館所蔵『蒙文老档』を用いて――」『史滴』第20号 pp.120-100
24. 1999年12月 「チベット、モンゴル、満州の政治の場で共有された仏教政治思想について」『早稲田大学教育学部学術研究-地理学・歴史学・社会科学編』第48号 pp.25-40
25. 2000年12月 「ガルダン・清朝・チベットが共通に名分としていた『仏教政治思想』」『東洋史研究』第59巻第3号 pp.35-62
26. 2003年1月 「パクパの著作に見るフビライ政権最初期の燕京地域の状況について」『史滴』25号. pp.226-249.
27. 2003年5月 「ポタラ赤宮の構造とその二つの機能について」『日本西藏学会会報』49号, pp.71-83.
28. 2003年 "Buddhism", History of Civilizations of Central Asia, Vol.5 Development in contrast: from the sixteenth to the mid-nineteenth century. pp.788-792
29. 2003年 The Conceptual Framework of the dGa'-ldan's war based on the beye dailame wargi amargi babe necihiyame toktobuha bodogon i bithe. "Buddhist Government" in the Tibet-Mongol and Manchu relationship. pp.157-165 , Tibet and Her Neighbours A History. Ed. by Alex McKay, Edition Hansjorg Mayer, London.
31. 2004年7月 「北海闡福寺と乾隆帝の白傘蓋仏信仰について」『満族史研究』第三号, pp.91-111.
32. 2005年1月 "The Image of Ch'ien-lung's Kingship as Seen from the World of Tibetan Buddhism," Acta Asiatica 88, pp.49-64.
33. 2005年3月 「妙應寺白塔の奉納品に見る乾隆帝のチベット仏教信仰 乾隆18年の白塔修復について」『早稲田大学教育学部学術研究』53, pp.1-11.

34. 2005年3月「雍正帝期の皇室外交の二面性 果親王のチベット奉使旅行」『内陸アジア史研究』20, pp.83-92.
35. 2005年3月 "Study on the Qianlong as Cakravartin, a Manifestation of Bodhisattva Manjusri", Tangkha, 『早稲田大学モンゴル研究所紀要』 第二号, pp.19-39
36. 2004年 "The Notion of "Buddhist Government" (chos srid) Shared by Tibet, Mongol and Manchu in the Early 17th Century". The Relationship Between Religion and State (chos srid zung 'brel) in Traditional Tibet.(Proceedings of a Seminar Held in Lumbini, Nepal, March 2000) pp.15-31.
37. 2007年 清初勅建チベット仏教寺院の総合的研究『満族史研究』6, pp.1-33
38. 2007年 盛京と北京の清初チベット寺の現況『満族史研究』6, pp.34-39
39. 2009年「チベット仏教世界から見た満洲王朝・清」『朝倉世界地理講座 第二巻東北アジア』第六章一節. pp.186-195.
40. 2010年「リンデン=ハーン碑文に見るチャハルのチベット仏教」『アジア・アフリカ言語文化研究』no.79. pp.121-143
41. 2013年「ダライラマ13世の著作に見る自称表現と政体表現の変遷について」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』no.24. p.1-18
42. 2013年「ジェブツンダンパ8世の即位礼に見るダライラマの即位礼の影響について」『日本モンゴル学会究紀要』no.44. p.49-62
43. 2015年「ジェブツンダンパ8世の王権像について---ダライ・ラマとの比較から--」『史滴』37:82-106
44. 2016年「マンネルヘイムのアジア旅行日記から見るチベット仏教徒の動向について」『内陸アジア史研究』31 pp.145-163
- 45.2016年「神奈川県立歴史博物館蔵「岡田鴨里関連文書」について」『史観』175:116-143
46. 2015年 ISHIHAMA Yumiko "The Dalai Lama as the cakravarti-rāja as Manifested by the Bodhisattva Avalokiteśvara" *Cahiers d'Extrême-Asie*, 24,169-188
- 47.2018年 「ポタラ宮白宮・赤宮両宮にこめられた政治的・宗教的意味について」『アジア仏教美術論集 中央アジアⅡ (チベット)』中央公論美術出版: 509-536
- 48.2018年「ダライラマ13世によるモンゴル仏教界の綱紀肅正とその意義について」『桜文論叢』96: 193-216.
- 49.2018年「ロシア科学アカデミー公文書館所蔵チベット文三書簡の歴史的意義」『内陸アジア史研究』33: 99-117.(井上岳彦と共著)

50.2019年「20世紀初頭、チベットとモンゴルを結んだ二人のモンゴル王公——カンドー親王とクルルク貝子——」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』29: 33-46.

★[学術的翻訳]

1. 1990年1月 パオツクラクテンワ著「チベット年代記『ケーパー・ガートン』「モンゴルの章」訳註(1)」（共訳）『史滴』（早稲田大学東洋史懇話会）第11巻. pp.122-2.
3. 1991年12月 パオツクラクテンワ著「チベット年代記『ケーパー・ガートン』「モンゴルの章」訳註(2)」（共訳）『史滴』（早稲田大学東洋史懇話会）第12巻. pp.116-144.
4. 1992年3月 ドルジツェテン講義録「中国におけるチベット学の現状」『日本西藏学会会報』（日本西藏学会）第38号. pp.18-22.
5. 1995年『西藏仏教宗義研究第七巻トゥカン『一切宗義』ゲルク派の章』（共訳）東洋文庫, pp.52-89
6. 1998年『アルタン・ハン伝訳注』（共訳）風間書房
7. 2004年4月『四部医典』解釈タントラ19章訳注—チベット医学の原典解明(1)—『杏雨』第7号, pp.1-31
8. 2007年『聖ツォンカパ伝』（共訳）大東出版社
9. 2010年4月『四部医典』解釈タントラ20章訳注—チベット医学の原典解明(2)—『杏雨』第13号, pp.1-45
10. 2012年4月『四部医典』解釈タントラ21章訳注—チベット医学の原典解明(3)—『杏雨』第15号, pp.1
11. 2013年12月「宝の如き水銀を調合する物語。『希有の不死を成就する耳の飾り』という書(rin chen dngul chu'i sbyor ba'i rtogs pa brjod pa'i gtam)」『史滴』第35号, pp.177-196.
12. 2014年『「ダライラマ14世の探索、認定、即位に関する報告書」訳注(上)』『史滴』36: 171-185
13. 2015年『「ダライラマ14世の探索、認定、即位に関する報告書」訳注(下)』『史滴』37: 195-219
14. 2016年「ダライラマ政権初期のチベット執政者の印璽に関する基礎研究」『史滴』38: 148-180

★[報告書]

1. 2002年3月『『翻訳名義大集』における梵・藏・蒙・漢語仏教語彙集の基礎的研究』平成12年度～13年度科学研究費補助金(基礎研究C2 課題番号12610026)
2. 2006年『チベット中世教会史の解明--「聖ツォンカパ伝の研究」--』平成16年度～17年度科学研究費補助金(基礎研究C 課題番号16520427)

★【学会発表】

1987年4月4日「ジュンガルによるチベット占領の実像」早稲田大学東洋史懇話会大会，於早稲田大学。

1987年7月20日「中央チベットの寺とオイラト・モンゴルの関係」第24回野尻湖クリルタイ，於野尻湖ホテル。

1987年10月20日「グシハン王家没落過程の再検討」内陸アジア史学会大会，於早稲田大学。

1987年11月28日「チベット平定時における清朝と青海ホショトの関係について」日本西藏学会大会，於国立民族博物館。

1988年5月28日「印・称号問題に見る蔵蒙清関係」日本モンゴル学会春期大会，於慶応大学。

1988年10月15日「第一次ダライラマ政権期における蔵蒙清関係の性格について」早稲田大学史学会大会，於早稲田大学。

1988年11月26日「モンゴル語訳『翻訳名義大集』の系譜」日本モンゴル学会秋期大会，於九州大学。

1989年8月31日“A Study of the Seals and Titles Conferred by the Dalai Lama”, International Association of Tibetology Seminar, 於成田ビューホテル。

1989年11月18日「モンゴル年代記の影響によるチベット年代記の変遷について」日本西藏学会大会，於仏教大学。

1991年9月15日“History of Incarnations ('khrungs rabs) of Sangs rgyas rgya mtsho”, China Tibetology Seminar in Beijing, 蔵学研究中心，於二十世紀飯店（北京）。

1993年10月30日「転輪聖王思想が蔵蒙清関係に与えた影響について」日本西藏学会大会，於高野山大学。

1995年6月21日“A New light on the 'Chinese Conquest of Tibet in 1720 based on the new Manchu sources", International Association of Tibetology Seminar, Sholoss Seggau in Graz.

1996年10月26日「外交文書の内容と形式から見た17世紀の藏・蒙・清の外交理念」日本西藏学会大会，於東北大学。

1998年11月3日「ダライラマ招請の背景にある順治5年の清・モンゴル関係について——第一歴史档案館所蔵『蒙文老档』を用いて——」内陸アジア史学会大会，於甲南大学。

2000年3月4日“On the doro shajin thought shared by Tibet, Mongol and Manchurian peoples”, Seminar on the Relationship between Religion and State in Traditional Tibet. Lumbini International Research

Institute, Nepal.

2000年3月27日「チベット、モンゴル、満洲の政治の場で共有された「仏教政治」思想について」早稲田大学東洋史懇話会、於早稲田大学.

2001年9月2日`The Conceptual Framework of the dGa' ldan's war, based on the beye dailame wargi amargi babe necihiyeme toktobuha bodogon i bithe: Buddhist Government in the Tibet-Mongol and Manchu relationship", History of Tibet Conference. The University of St Andrews, Scotland.

2002年10月19日「ポタラ宮に見るサンゲギャムツォの王権観」日本西藏学会大会、於東京大学.

2005年3月9日 Qianlong Emperor As a Manifestation of The Bodhisattva Manjusri. at Harvard University Yen-Ch'ing Institute.

2006年8月29日 Cakrasambhara Initiation in the tenth year of Qianlong Reign based on Zaobanchu Documents IATS2006 at Bonn Maritim Hotel

2007年7月2日「清初直建チベット寺の研究(14:10-14:50)満族史研究会大会 於神戸国際会

2009年11月19日 "The Process of Development of the Previous stories of lchang skya Compared with Qianlong emperor's "Internarional Conference: Exploring Tibet's History and Culture jointly hosted by University of Delhi and Central University of Tibedtan Studies Sarnath, Varanasi. at University of Delhi.

2011年4月28日 "The Buddhist Patron-Monkship relationship in Centreal Asia and its decline from the 18th to the early 20th centrury." Roundtable on the changing nature of Asian relations from the 18th the early 20th century. Nalanda-Sriwijaya Centre, Institute of Southeast Asian Studies (ISAES) Singapore.

2012年5月23日 "Qianlong Emperor Seen From the View of the Tibetan Buddhis World." Qianlong's Tomb, ANR SINETOMB. at College de France Site Ulm, 3 rue d'Ulm, 75002, Paris.

2013年7月23日 "The Dalai Lama as the Cakravartin Raja manifeted by Avaloktेशvara." 13th Seminar of the International Association for Tibetan Studies. National University of Mongolia, Ulaanbaatar, Mongolia

2014年11月15日「ボグド・ハーンの王権像について」日本モンゴル学会 2014年度秋季大会 於岡山大学 農学部

2015年12月6日「ダライラマ13世のモンゴル・青海行がモンゴル独立に与えた影響について---チベット、モンゴルの近代「国家」生成の現場-」東北アジア地域研究の新たなパラダイム(東北大学東北アジア研究センター創設20周年記念式典・講演会・国際シンポジウム) 於仙台国際センター

2016年11月19日(土) 第64回 日本チベット学会大会「チベット仏教世界、近代の再生」

2017年3月6日(月) "Qing Emperors as Cakravartin Raja incarnated by the Bodhisattva Manjusri" Kredha Foundation ・ 中央ユーラシア歴史文化研究所共催 The Nature of Inner-and East Asian Politics and Inter-polity Relations in the 18th and 19th centuries, focusing on Qing-Tibetan-Mongol relations; Perspectives from Contemporary Sources.

2017年9月26日(火) "Emerging split within Dalai Lama and Jebtsundampa:Confrontation between universal and local church"..Kredha Foundation 主催: The effect on Inner- and East Asian relations of the advent of modern international law and the end of the Qing empire in the late 19th and early 20th centuries; perspectives of contemporary sources. At Oxford University center for the Environment..

2018年3月26日(月) 13:00-17:00 「チベット仏教世界の成立と展開」於 東北大学東北アジア研究センター大会議室

2018年6月30日(土) Qing-Tibet Relation Viewed from the Changes in the Dalai Lama's Self-Designation. 東北師範大学・コロンビア大学共催 第四屆清朝与内亜国際學術研討会. 於 長春海南航空紫荊花飯店七樓(会見廳)

2018年9月14日(金) "Drepung Gomang College which Networked Russian, Mongol and Tibetan Buddhists." History Heitages and the Future of Kyakhta: From the Dynamism of Russia, China, Mongolia and Japan 於 キャフタ郷土史博物館